

大野川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～日本の産業を支える「九州最大の工業地域」と「歴史的観光地」を水害から暮らしを守るため流域連携によるハード・ソフト対策の推進～

○ 令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、大野川水系においても、竹田盆地や大分平野・県都大分市街地に人口・資産が集中しているため、ひとたび災害が発生すると甚大な被害が想定される特性を踏まえ、築堤及び河道掘削などの事前防災対策を進め、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、平成5年9月洪水を安全に流し、それを上回る戦後最大の平成29年9月（台風第18号）同規模洪水においても堤防からの越水を回避し、家屋浸水や臨海工業地域の経済活動に対する影響など、流域における浸水被害の軽減を図る。



■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、護岸整備、堤防整備、堰改築、橋梁架替 等
 - ・校庭・公園・公共施設等の貯留施設整備検討
 - ・住宅・事業所等における雨水貯留施設設置補助継続検討
 - ・ため池の補強・有効活用
 - ・下水道等の排水施設の整備
 - ・下水道事業における雨水流出抑制施設の検討
 - ・利水ダム等5ダムにおける事前放流等の実施、体制構築（関係者：大分県、土地改良区など）
 - ・水田の貯留機能向上
 - ・砂防関係施設の整備
 - ・森林整備・治山対策
 - ・洪水調節施設等の検討
- ※今後、関係機関と連携し対策検討

雨水貯留施設設置補助



下水道等の排水施設の整備



■ 被害対象を減少させるための対策

- ・災害危険区域の検討
 - ・浄水場や水資源再生センター・公共施設の耐水化等による機能確保
 - ・立地適正化計画の作成・見直し（防災指針の作成等）
 - ・災害リスクを考慮した居住誘導区域の検討
- ※今後、関係機関と連携し対策検討

施設の耐水化



立地適正化計画の作成



■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水害監視カメラ・量水標の設置
 - ・防災情報伝達の多重化の検討
 - ・小規模河川の氾濫推定図、ハザードマップの作成
 - ・マイ・タイムラインの作成支援
 - ・自主防災組織単位毎のタイムラインの作成支援
 - ・水防災意識を高める防災教育、防災訓練 等
- ※今後、関係機関と連携し対策検討

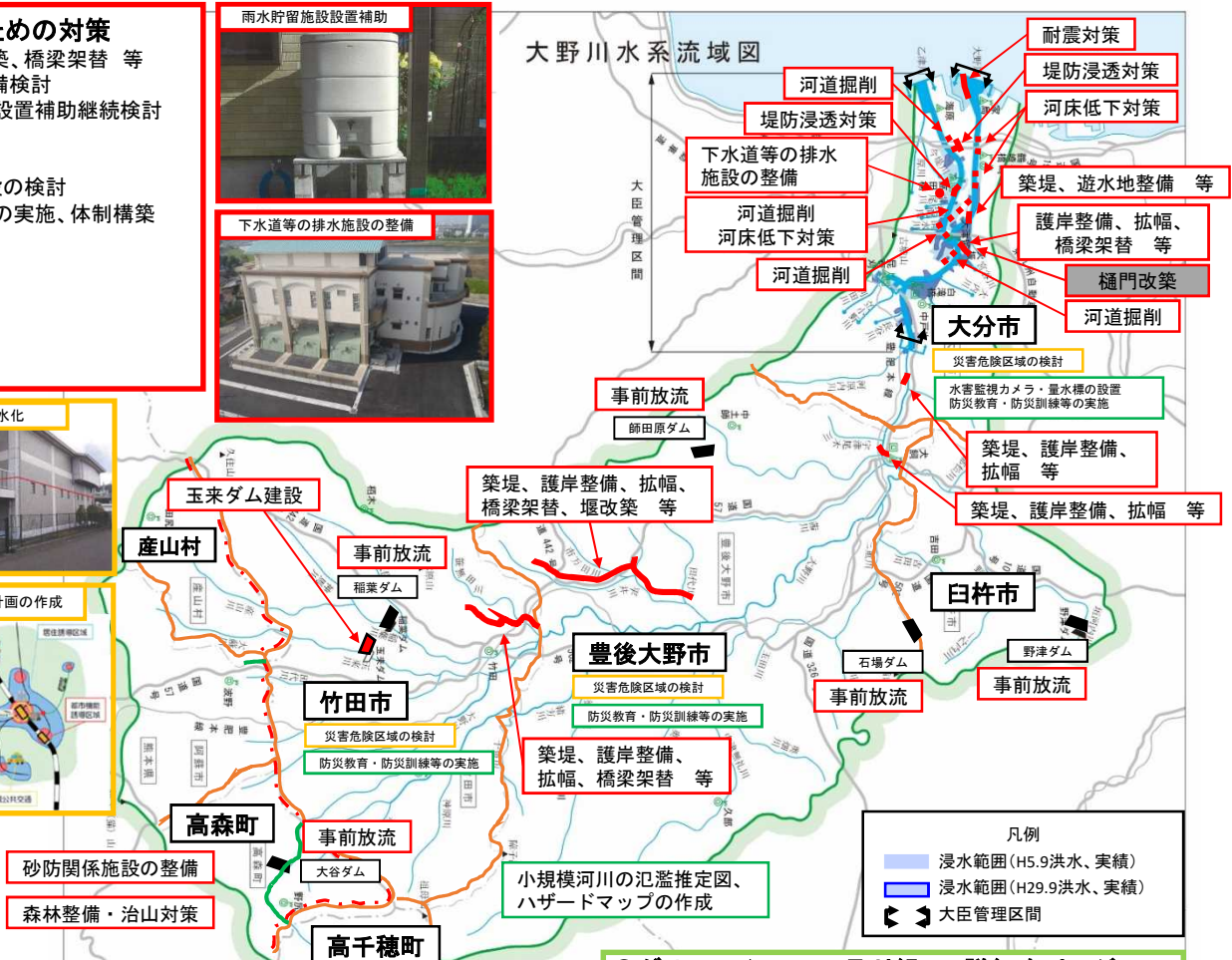
自主防災組織（タイムライン作成状況）



防災訓練の様子



大野川水系流域図



● グリーンインフラの取り組み 詳細次ページ

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

大野川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～日本の産業を支える「九州最大の工業地域」と「歴史的観光地」を水害から暮らしを守るため流域連携によるハード・ソフト対策の推進～

●大野川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】大分市の堤防の安全性確保のため河道掘削・河床低下対策、浸水被害を軽減するため支川大谷川・宮谷川の堤防整備を実施し、また、竹田市街地の浸水被害を軽減するためダム建設・濁淵川の堤防整備、豊後大野市等の浸水被害を軽減するため平井川の堤防整備等を実施し、さらに、流域全体での流水の貯留機能の拡大、雨水貯留施設等の対策及び、災害危険区域の検討や立地適正化計画の作成・見直し(防災指針の作成等)、ハザードマップ・各タイムラインの作成・支援等のソフト対策を実施し流域内の被害軽減を目指す。

【中期】大分市の堤防の安全性確保のため河道掘削、河床低下・耐震対策を実施し、また、継続して豊後大野市等の浸水被害を軽減するため平井川の堤防整備を実施するとともに、流域全体での雨水貯留施設等の対策及びソフト対策を実施し流域内の被害軽減を目指す。

【中長期】継続して大分市の河床低下・浸透・耐震対策を実施するとともに、流域全体での雨水貯留施設等の対策及びソフト対策を実施し流域内の被害軽減を目指す。

■河川対策 (約338億円)
■砂防対策 (約 65億円)
■下水道対策 (約165億円)

区分	対策内容	実施主体	工程			
			短期	中期	中長期	
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、堤防整備、橋梁架替、堰改築 等	大分県、国土交通省	本川中流部河道掘削・河床低下対策	本川中流部河道掘削・河床低下対策	本川中流部浸透・河床低下対策	
			大谷川、濁淵川、平井川堤防整備	平井川堤防整備		
			玉来ダム建設			
			宮谷川、本川下中流部堤防整備	本川中流部堤防整備		
	地震対策	国土交通省		本川下中流部耐震整備		
	雨水貯留機能の向上	大分市、竹田市、豊後大野市	住宅・事業所等における雨水貯留施設設置補助継続検討、校庭・公園・公共施設等の貯留施設整備検討			
		大分県	水田の貯留機能向上に向けた普及・啓発			
		国土交通省	洪水調節施設等の検討			
	下水道対策事業	大分市		下水道等の排水施設の整備		
				管きよ整備		
	土砂災害対策	大分県 大分県、熊本県、宮崎県 大分森林管理署、 森林整備センター		下水道事業における雨水流出抑制施設の検討		
				砂防関係施設の整備		
				森林整備・治山対策		
	流水の貯留機能の拡大	大分市	ため池の事前放流に関する可能性の検討、普及・啓発			
		大分市、大分県、国土交通省	利水ダム等6ダムにおける事前放流等の実施、体制構築			
被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まい方の工夫	大分市、竹田市、豊後大野市	災害危険区域の検討			
		大分市、竹田市、豊後大野市、(大分県)	立地適正化計画の作成・見直し(防災指針の作成等)、災害リスクを考慮した居住誘導区域の検討			
	施設の機能確保	大分市	浄水場や水資源再生センター・公共施設の耐水化等による機能確保			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報の提供・充実	大分市、大分県、国土交通省、気象台	水害監視カメラ・量水標の設置			
			防災情報伝達の多重化の検討			
	避難体制等の強化	大分市、竹田市、豊後大野市、臼杵市、 高千穂町、大分県、熊本県、宮崎県、 国土交通省、気象台	小規模河川の氾濫推定図	ハザードマップの作成		
			マイ・タイムラインの作成支援、自主防災組織単位毎のタイムラインの作成支援			
			水防災意識を高める防災教育・防災訓練等の実施			
グリーンインフラの取組	重要種等の保全	国土交通省	重要種等の保全			
	ワンド等の保全	国土交通省	ワンド等の保全			
	生息・生育・産卵環境の保全	国土交通省、大分県	生息・生育・産卵環境の保全			
	連続性の確保	大分県	連続性の再生			
	玉来川かわまちづくり	大分県	玉来川かわまちづくり			
	多様な生態系の保全	大分県	多様な生態系の保全			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

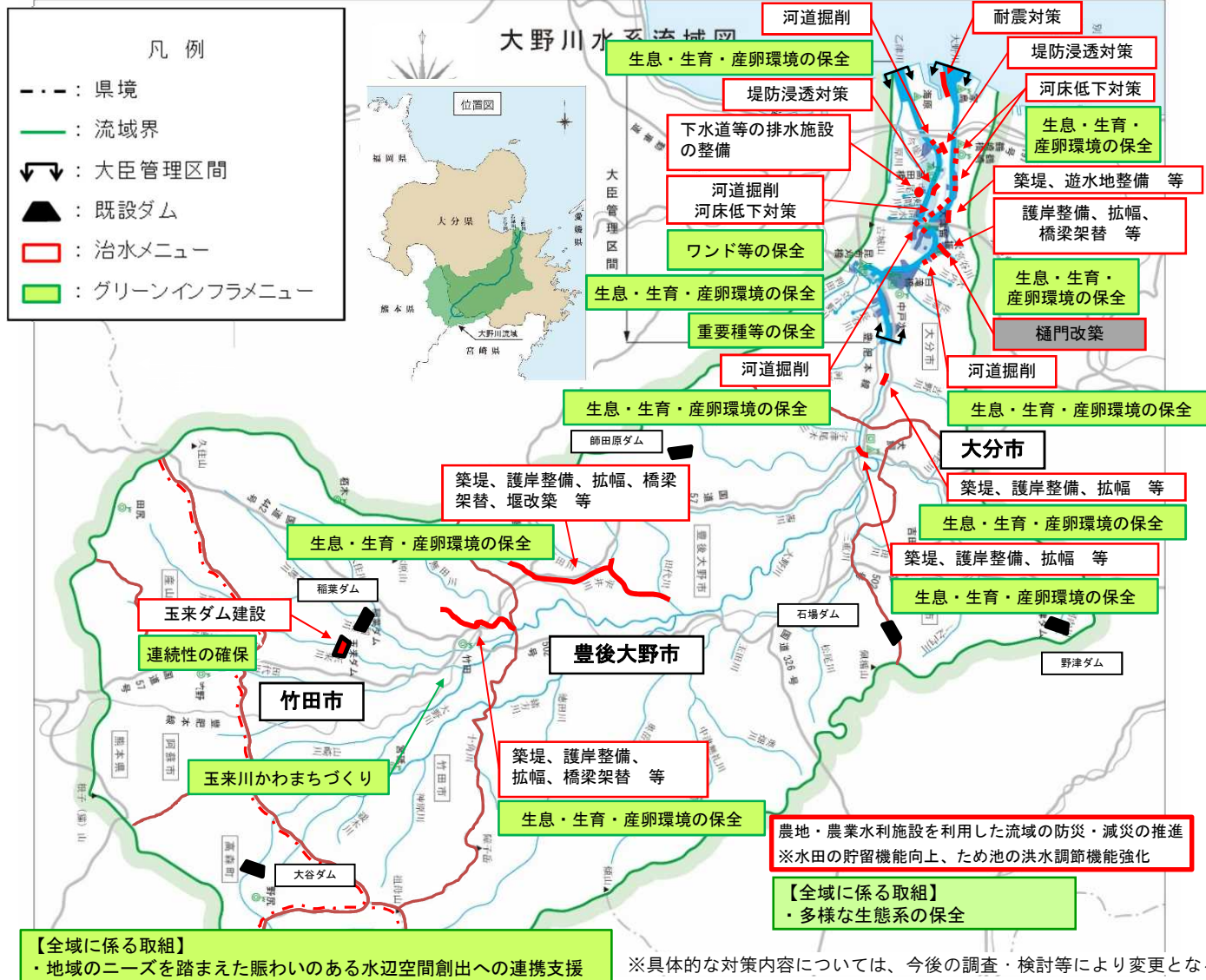
※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

大野川水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】

～日本の産業を支える「九州最大の工業地域」と「歴史的観光地」を水害から暮らしを守るため流域連携によるハード・ソフト対策の推進～

●グリーンインフラの取組『アユ等の産卵環境等となる良好な河川環境の保全・再生』

- 大野川はアユの餌となる付着藻類が豊富で下流部の瀬はアユの産卵場に利用されるほか、魚類等の遡上を阻害する横断工作物等がない河川環境にあり、瀬や淵、ワンド、自然河岸、汽水域等の多様な河川環境が存在しており、次世代に引き継ぐべき豊かな自然環境が多く存在しています。
- 大野川において、アユ等の生息・生育・産卵環境を保全するため、今後20年間で瀬・淵などの良好な河川環境を再生するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進します。



●治水対策における多自然川づくり

- ・ワンド、水際環境の再生
- ・重要種等の保全
- ・生息・生育・産卵環境の保全

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み

- ・小中学校などにおける河川環境学習



生息・生育・産卵環境の保全



小中学校などにおける河川環境学習

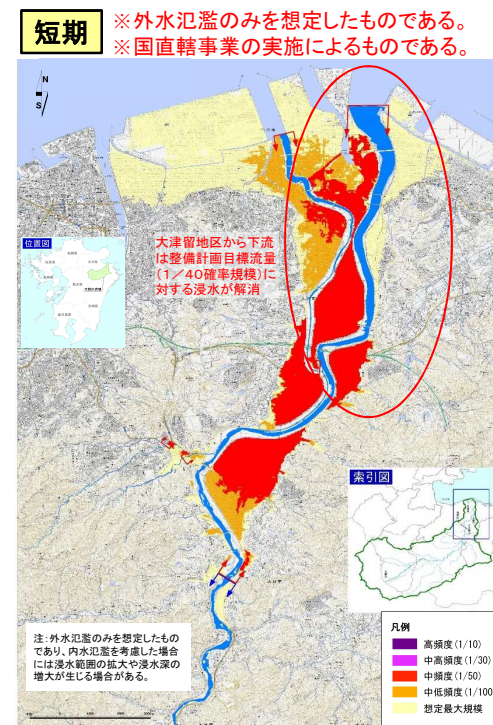
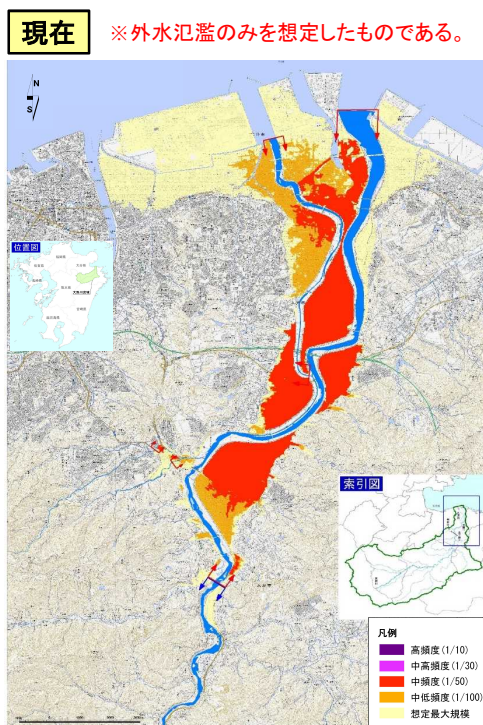
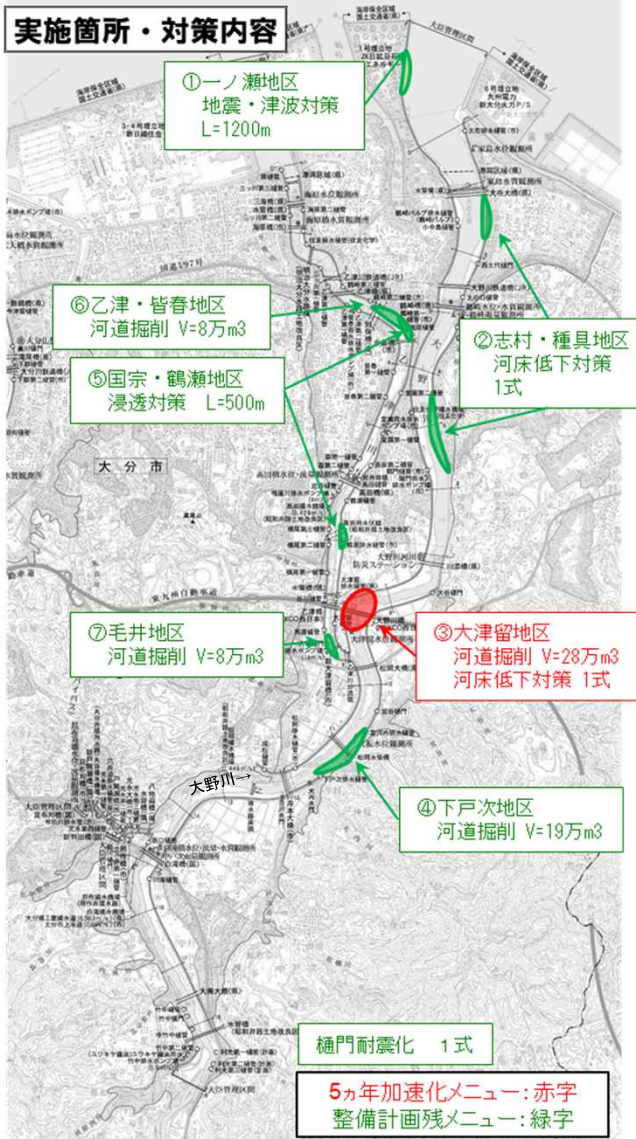
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

大野川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～日本の産業を支える「九州最大の工業地域」と「歴史的観光地」を水害から暮らしを守るため流域連携によるハード・ソフト対策の推進～

河岸浸食が進行しており昭和18年洪水による堤防決壊実績がある大津留地区において河床低下対策等を令和7年度までに完了し、大津留地区から下流の大野川については、整備計画目標流量（1/40確率規模）を確保する。

短期整備（5ヶ年加速化対策）効果：河川整備率 約79%→約85%



【短期整備完了時の進捗】
③大津留地区
河道掘削、河床低下対策 0%→100%

区分	対象区間		工程	
	河川名	地区名	対策内容	
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	関連事業		【5ヶ年加速化対策】 短期(R3～R7年度) 約1/30→1/40 大野川(大津留地区より下流)	中長期(R8～R16年度) 約1/30→1/40 大野川(大津留地区より上流) 乙津川
	大野川	①一ノ瀬地区	地震・津波対策	43%
		②志村・種具地区	河床低下対策	100%
		③大津留地区	河道掘削 河床低下対策	100%
		④下戸次地区	河道掘削	100%
	乙津川	⑤国宗・鶴瀬地区	浸透対策	100%
		⑥乙津・皆春地区	河道掘削	100%
		⑦毛井地区	河道掘削	100%
	大野川 乙津川	樋門耐震化		100%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

大野川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～日本の産業を支える「九州最大の工業地域」と「歴史的観光地」を水害から暮らしを守るため流域連携によるハード・ソフト対策の推進～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：85%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



3市町村

（令和3年度末時点）

流出抑制対策の実施



0施設

（令和2年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 4箇所
（令和3年度実施分）
砂防関係施設の
整備数 1施設
（令和3年度完成分）

立地適正化計画における
防災指針の作成



0市町村

（令和3年12月末時点）

避難のための
ハザード情報の整備



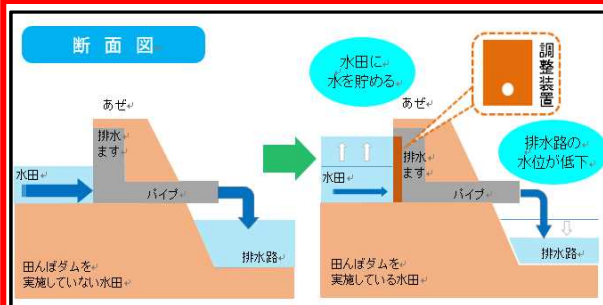
洪水想定
区域 19河川
（令和3年12月末時点）
内水洪水想定
区域 0団体
（令和3年11月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



洪水 720施設
土砂 15施設
（令和3年9月末時点）
個別避難計画 3市町村
（令和4年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



田んぼダムイメージ図

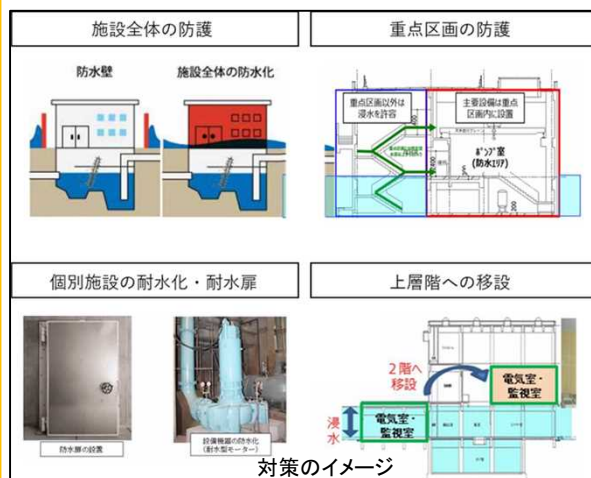


田んぼダム用調整装置

モデルほ場での実証事業の実施（大分県）

- ・県内3箇所のモデルほ場で、複数の調整装置を設置して、最適な調整装置及び水田の降雨時の貯留効果を検証
- ・大分大学と共同で検証を実施

被害対象を減少させるための対策

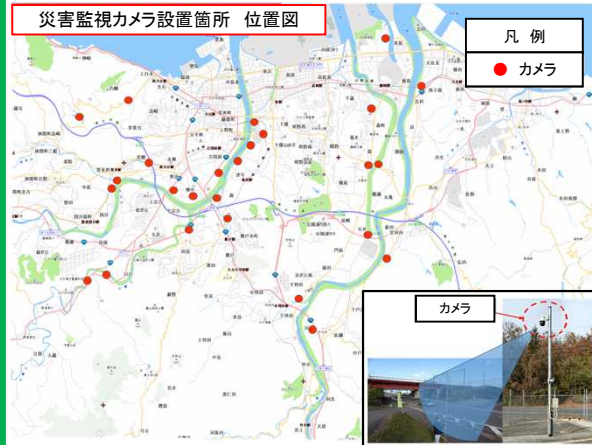


下水道耐水化計画の策定（大分市）

	大分川水系	大野川水系
水資源再生センター	2箇所	3箇所
汚水中継ポンプ場	2箇所	4箇所
雨水排水ポンプ場	5箇所	4箇所
災害対策ポンプ	3箇所	1箇所

耐水化計画における検討対象施設

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



水害監視カメラの設置（大分市）

台風などの大雨時においては、職員などによる浸水状況の把握やパトロールが困難となることから、防災対応に大きな影響を及ぼす恐れがある。市民の安全・安心を確保し、事前防災を進めるため、特に浸水被害が発生する26箇所に水害監視カメラの設置を行い、状況を適宜把握しながら防災対応を行うとともに、リアルタイムな映像を市民に配信することで、自主避難の判断等、的確な避難行動に結びつける。

- 水害監視カメラシステムの主な内容
 - ・カメラの設置箇所数 26箇所
 - ・カメラ映像はライブ映像により常時公開
 - ・夜間でも映像が鮮明に確認できるカメラを使用
- 公開日 令和3年7月5日
- 公開方法
 - ・水害監視カメラシステムホームページ
 - ・YouTube「大分市水害監視カメラ」
 - ・ケーブルテレビ（※災害時のみ放送）